

臨床研究に関する情報公開について

当院では、下記の研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する方で、カルテ情報等の診療情報を研究目的に利用されることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象とはしませんので、下記の問い合わせ先にご連絡ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。また、研究の詳細については、他の研究対象者等の第三者の個人情報や知的財産の保護に支障がない範囲内での開示となります。

研究課題名	黄斑円孔に対する手術予後の実態調査		
実施予定期間	研究実施許可日 ～ (西暦) 2022年10月31日		
実施診療科	眼科		
研究の審査等	臨床研究審査委員会審査日	2022年8月10日	
	研究実施許可日	2022年8月15日	
対象となる方	対象期間内に、けいゆう病院眼科において、黄斑円孔の治療を受けられた方		
対象期間	(西暦) 2017年1月1日～(西暦) 2022年6月30日		
研究責任者	所属	眼科	氏名 佐藤 里櫻
研究の意義	黄斑円孔は初回手術閉鎖率(治癒率)が約95%とされていますが、円孔径の大きなものは60%程度とされ視力予後も不良とされています。2010年に報告された手術法(Inverted ILM Flap Technique<以下Invert法>と呼ばれる内境界膜剥離時の細かい工夫)により、その治癒率は向上しているとされていますが報告は限られています。また、手術予後に影響する因子として術前術後の視機能を評価して黄斑円孔における手術予後を検討します。本研究の意義は実臨床のデータを後ろ向きに調査することでその実態を明らかにすることです。		
研究の目的	黄斑円孔に対する手術予後の実態を調査し、術後視機能影響因子の検討を行う		
研究の方法	対象となる方の臨床情報について、診療録を振り返って収集します。		
研究に使用するもの	診療録から得られる情報を匿名化した上で使用します。(受診までの期間、外傷既往有無、後部ぶどう腫有無、視力、眼圧、年齢、性別、黄斑円孔径、円孔基底部直径、脈絡膜厚、眼軸長、生化学検査データ等)		
結果の公表	関連学会や学術論文等で発表予定ですが、個人を特定できる情報として公表さ		

	れることはありません。
個人情報の保護	対象者となる方の情報使用に関しては、個人を特定できる情報を削除した上で研究責任者の責任のもと厳重に管理・保管します。
研究の資金源	本研究は特に資金を必要とせず、外部からの資金提供もありません。
利益相反	本研究の実施にあたり、研究の透明性や公正性を損なうような利益相反はありません。
情報等の二次利用	本研究で得られた情報は、本研究の目的以外には使用しません。
お問い合わせ	一般財団法人神奈川県警友会 けいゆう病院 電話 045-221-8181（代表） 内線2124 眼科 佐藤 里櫻